

# 職員室から・・・

2009・5・21

加藤 由美子

5月はじめごろ幼稚園の庭一面に黄色い粉（松の花粉）が広がっていて、子どもたちも「なにこれ？」黄色い粉が広がらないように、おじさんが水を撒いてくれました。すると水溜りに黄色い縁取りができました。それを見て「うわ～黄色だ～ここ入るとだめだぞ～飛び越せ～」といつもと違う水溜りを楽しんでいました。小さな変化にも敏感に反応して一つひとつ心に取り込んでいく子どもたちです。

さつま芋の苗を植えに行ったとき

広い畑に立つだけで、気持ちがよくなりますね。芋の苗を植えるより、広い畑を歩くことが気持ちよくて――という様子の子どもたちもいて、数人が畑の端をあるいては止まり・・ゴニョゴニョとお話している姿もありました。ふふふ  
白ばらのMちゃんが「ぺんぺん草があるよ！ぺんぺん草、耳のところだとカラカラって音がするんだよ」と教えてくれました。「ぺんぺん草って誰が教えてくれたの？」と聞きますと「パパと自転車乗ってるときにね、『これぺんぺん草だよって教えてくれたんだよ、ピッピッってやるとカラカラって鳴るんだよ、パパが教えてくれたんだよ』とMちゃん。そして続けて「ピッピッってどうやるか分かる？」と聞いてくれました。ハートの形のような葉(?)を茎から少しだけピッとはがしておくのですよね。そうしてくるくると回すと音がする・・・・そのことがよく分かる“ピッピッ”というMちゃんの表現でした。お父さんに自転車に乗せてもらったら、きっといろいろなものが見えたことでしょうね。お父さんとお子さんの温かな触れ合いの場面を想像して、嬉しくなりました。

暖かくなって、園庭の遊びも活発になってきました。

先日の降園後のこと、園庭の水道がいくら締めても水がちよろちよろと出ていて止まらないから来て！と卒園したお姉さんが知らせてくれたので、どれどれと見に行ってみると、水道に行く前に、思わず「お～～～」と言ってしまった場面に出合いました。大きく掘った穴に水がたっぷり入っていて、その中に子どもたちが・・・・薬湯のごとき温泉のように見えて・・・・とっても楽しそう――でも子どもたちは泥まみれ――その姿を見守っていた数人のお母さんに私は脱帽でした。子どもたち、すっごく楽しかったでしょうね～！お洗濯、大変だったことでしょうね。

これから泥んこ遊びが盛んになることと思います。子どもたちはとっても喜ぶ遊びです。洋服が汚れてしまうことが多くなりますが、どうぞよろしく願いいたします。

さて、またまた、卒園されたお子さんのおかあさんからメールをいただきました。

『昨日、Sの授業参観に行ってきた。まだ、勉強らしきものは、しないのですが、勉強する準備を見て来た感じです。すごいと思ったのは、Sは先生の話をしつかりと聞けるということです。これだけでも、母はほっとしました。さらに、周りがざわついていても、集中して、先生のお話を聞いたり、先生の行動を見て、判断し、自ら行動できるのは、さすが青陵っ子だと思いました。幼稚園で、先生方している声がけの、もういいか～い、ま～だだよ。もういいか～い、もういいよ。や、小さな声でお話しても、ちゃんとお話を聞くことができる、が、しっかりと身に付いていることが、実感できた1日でした。

学校で、担任の先生に心配なことをお手紙しました。『学校で学ぶ楽しさを知って欲しいから、ワークや公文などの準備学習をしていないので、ひらがなもきちんとかけませんが大丈夫ですか？』と――先生からは『大丈夫です。最初からゆっくり一つ一つやっていますから』と返答頂き、園長先生がおっしゃっていた大丈夫です＝が、あつ、本当に大丈夫なんだ＝と実感しました。確かに今までに学校でしてきたプリントを見ると、色塗りや、うねうね、ぎざぎざ、らせん、ぐるぐるなど、運筆の練習から、始まっています。その前はランドセルからのもの出し入れの練習、鉛筆の持ち方から、書く姿勢など、ゆっくりと教えてもらっていました。もし、私のような不安を持っている方が、いらっしゃったら、どうぞ、大丈夫ですよ＝とお伝え下さい。

＝Sは3日かけて、学校で使う雑巾を二枚縫い上げました。これで、学校をピカピカ＝にするんだと、はりきって、学校に持って行きました。固くて、縫にくい雑巾を、指に針を刺しながらも、頑張って仕上げた姿はとても素敵でした。

追伸

ついつい口を出してしまいそうなことも、じっとこらえて見守ると、“子供が初めて経験できる時”に出会えるのですね。その時、子供は目を輝かせ、こころはずませながら、話し始めるのです。今はこれが私の楽しみの1つになっています。』

このようなメールをいただきました。学校によって違いもあるようですが、基本は丁寧な“あいうえお”を教えてくださいませようですね。はじめて出会うことに目を輝かせて、学ぶ喜びを味わっているSちゃん、きっと意欲をもって学ぶことができるでしょうね。子どもが自分自身で生きていくことができるように育てていきたいと思っています。このメールにもあるように、子どもたちをじっと見守ってみると、きらきらした姿を見ることが出来ますね。言葉をできるだけ少なくして子どもを見守ることが、子どもが自分自身で生きていくようになるためにも、大事なことなのです。